学力向上フロンティアスクール中間報告
北海道　第一ブロック　古平町立古平小学校

Ⅰ．学校の概要　（平成１５年４月）

北海道古平町立古平小学校										
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数	
学級数	１	１	１	１	１	１	２	８	１６	
児童数	２４	１６	２８	３６	２８	２８	２	１６２		

Ⅱ．実践研究の概要

１．研究主題（テーマ）

一人ひとりが生き生きと学ぶ
学習指導のあり方を求めて
～少人数指導における基礎基本の徹底にねらいをおいた授業改善～
～教師の特性を生かした新しいティームティーチングのあり方と授業改善～

１．内容と方法

（１）実施学年・教科

・４年は昨年度と同様の指導体制。
　　国語・算数（基礎・基本の徹底のための少人数・教科担任制指導）
　　その他（一人ひとりの多様性に応じた指導のための協力教授指導）
・１、２、３年・・・算数科で ＴＴによる指導
　（単元により習熟度別学習、課題別学習など学習形態を取り入れながら。担任がＣＴ、専科がＳＴ）
・５、６年・・・　算数科でＴＴによる指導
　（単元により習熟度別学習、課題別学習などの学習形態を取り入れながら。担任がＳＴ、専科がＣＴ）
・算数特別教室を利用しての少人数学習、課題別学習、習熟度別学習の試み。
・４年生については児童数が多くきめ細かな指導が困難なことから、特に理解の程度に差の出やすい国語科と算数科について教科担任制を取り入れ、他の教科等についてはＴＴにより指導している。
・他の学年についても算数科の理解力が全体的に劣っており、また、個人差も出やすいことから複数による指導を行っている。

（２）年次計画

平成１４年度	**模索期** 児童分析と指導法・指導体制の模索、資料収集 ○テーマ **『一人ひとりが生き生きと学ぶ学習指導のあり方を求めて』** ～基礎基本を重視し、生き生きと活動できるための授業改善をめざして～ ○仮説 １）子どもの探究心を喚起するような学習問題の内容や提示方法を工夫することで、自分で解決しようとする意欲や態度を育てることができる。 ２）問題解決の具体的な方法や手順を身につけさせることによって、自ら学び、考える意欲や態度を育てることができる。 ３）個の考えや成果を交流し合う場の設定を工夫することによって、お互いに高め合おうとする意欲や態度を育てることができる。 ○研究内容・研究方法 **（１）少人数指導における基礎・基本の徹底にねらいをおいた授業改善** ・児童一人ひとりに応じた（個人データ：学力・知能・個性、特性に基づいた）基礎学力向上のための指導のあり方と授業の改善のための施策。 ・情報機器の活用など一人ひとりの実態に応じた基礎学力と問題解決力（自己教育力）向上のための教材・指導法の開発と授業改善のための施策。 **（２）教師の特性を生かした新しいティームティーチングのあり方と授業改善** ・教師それぞれの得意分野・特性・指導技術を生かしたティームティーチングのあり方と授業改善。 ・指導の場面に応じて CT を交代するなどの柔軟な効果的指導のあり方と評価の方法 ・児童の理解度に応じた学習形態や指導方法の改善。 ・発展的学習（総合的な学習など）における児童のニーズの多様化への対応

平成１５年度	**確立期** 指導体制や指導方法の確立と改善　　校内・管内への成果普及 ○テーマ　　〃 ○仮説　　〃 ○研究内容・研究方法 ・算数科における少人数指導・ティームティーチングの全校体制による展開 ・児童の学力の評価を生かした指導の改善 ・習熟度別・課題別学習指導の工夫 ・補充的学習・発展的学習の全校体制による展開 ・教科・単元ごとの評価規準の設定と指導と評価の一体化

平成１６年	○テーマ　　〃 ○仮説　　〃 ○研究内容・研究方法 **拡充期**　公開研究会による成果の拡充、管内・全道への成果普及

（３）研究体制

フロンティアスクール推進委員会
校　長・・・・・・・・・・・・道央地区学力向上推進協議会委員
教　頭・・・・・・・・・・・・フロンティアスクール渉外担当
事務職員・・・・・・・・・・・予算執行相談
研究部
4年国語科、学級担任・・・・・・情報教育・総合的な学習の時間担当
4年算数科、フロンティア担当・・・校内研究担当
算数TT専科・・・研修担当
各学年ブロック

Ⅲ．平成１５年度の成果及び課題

○成果

（１）少人数指導による成果
・単位時間や日課の中に補充学習の場を設定することにより、漢字や計算力が向上した。
・授業への集中力が持続するようになり、学習意欲の向上が認められる。
・自信をもって発言する子が増え、まちがいを認め合える土壌が育ってきている。
・自己課題の設定、自己評価などの力がついてきている。
・ノートのまとめ方や学習の仕方など個々の学習技能の向上が認められる。

（２）協力教授による成果
・児童のいろいろな場面での多面的な評価が可能になった。
・個別指導により、細かな学習技能の定着を図ることができた。
・授業技術の交流が図られ、教材研究に時間をとることができた。
・学力が低位の児童に対する支援時間が増え、学習意欲や基礎学力などの向上が見られた。

（３）算数ＴＴ指導の成果
・ＣＴ，ＳＴの役割を明確にすることで、つまずいている児童への支援がしやすくなり、基礎・基本の定着を図ることができた。
・基礎・基本の定着に伴い、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。
・一年間を通し、授業を検証することで、教材研究を深めることができた。
・問題解決的な学習に取り組むことで、問題を把握する力がついてきている。

○課題
・教科や単元ごとの評価規準の設定と評価方法の研究
・児童データの交流の方法
・データ整理と打ち合わせの時間の確保

Ⅳ．学力把握のための学校の取り組みについて

○学力調査(４月～前学年の学力検査・全校、２月～現学年の学力調査・３年生のみ)
○評価の観点及び教科ごとの評価規準作成と活用

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

・保護者への説明会（学校だより・学級懇談を通して）
・学力検査の実施
・第１次　校内研究授業
　　（２年　６年　４年　ことばの教室）

・フロンティアスクール公開研究大会（１０／３）
　４年　「小数」少人数教科担任制
　６年　「割合」ティームティーチング
　研究協議・講演会

・第３次　校内研究授業
　（３年　５年　１年　くんれん教室　がくしゅう教室）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】☐ １５年度からの新規校　☒ １４年度からの継続校

【学校規模】☐ ６学級以下　☒ ７～１２学級
☐ １３～１８学級　☐ １９～２４学級
☐ ２５学級以上

【指導体制】☒ 少人数指導　☒ Ｔ・Ｔによる指導
☒ 一部教科担任制　☐ その他

【研究教科】☐ 国語　☐ 社会　☒ 算数　☐ 理科
☐ 生活　☐ 音楽　☐ 図画工作　☐ 家庭
☐ 体育　☐ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】☒ 有　☐ 無